授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の算数・数学の未来へバトンをつなぐ

令和元年６月発行
西部教育事務所

今回は、５月３０日(木)に具同小学校で、６月 25 日（火）に授業研究会に向けて行われた５年生の子供たちを対象に模擬授業を行った教材研究会の様子を紹介します。

西部管内の講座関係のＨＰ

【提案内容】小学校４年「およその数の表し方を考えよう」

【授業者】溝渕　千波教諭　（四万十市立具同小学校）

具同小の本日の提案

- 教科書で例示されている単元の配列を入れ替え、「数と計算」の領域を１学期にまとめた単元デザインを考えた。自分の考えを表現し合う活動を繰り返し行うことで、数の感覚を豊かにし、子供たちに力を付けたいと考えた。
- 子供たちにとって身近な生活場面を設定し、概数の意味や良さについて実感させ、数と式、図を双方向に行き来させ困った時にどう改善していけばよいか授業の中で考えさせていきたい。

溝渕　　教諭

模擬授業・協議

《協議での意見》

- 概数の意味理解で、切り上げや切り捨てをした数が実際どのように動くのか板書に残していくようにしてはどうだろうか。
- 問題の場面理解で、○円以内で買い物をする場面は日常生活で多い。○円以上は少なく、イメージしにくいのではないか。子供の経験と重ねる場面があった方がよいのではないか。

齊藤　一弥　学力向上総括専門官による指導・助言

授業づくり講座の意義は何か

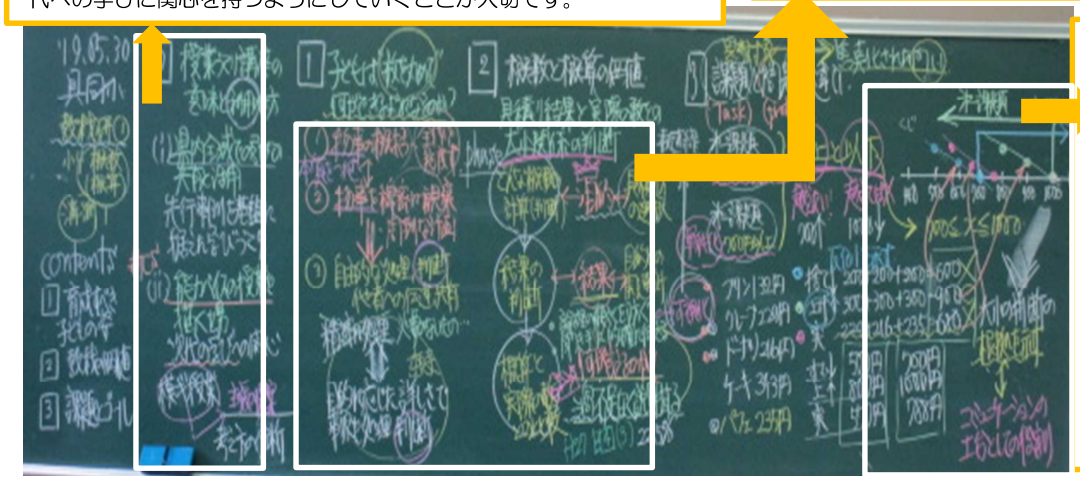
「子供たちが何ができるようになるか」というところに焦点をあてた授業（単元・授業展開・問い）を考えていくことが大事です。本講座を通して、能力ベイスの授業を実感してもらえるよう、教材に焦点をあてた学びの場を設定すること、学校規模や学級数にとらわれることなく次代への学びに関心を持つようにしていくことが大切です。

子供は何ができるようになるのか

数を丸めて考えることで、大きさが捉えやすくなることや物事を綿密に観察し、自分の処理の方向性を立てていくことができるようになる。そのためには、概数・概算を活用して、目的に応じて合理的かつ能率的に判断していく学びを描くことが大事です。

見方・考え方の明示的指導とは何か

目的に応じてどのような見積り方をしたらよいか判断できるようにするためには、見積った結果を正しく解釈できるようにすることが大切です。「切り上げ」「切り捨て」「四捨五入」のそれぞれの方法で見積った結果が実際の数の和とどう関係しているかを考える場を設けることや、自分の考えを的確に相手に伝える方法として、数直線に表すなど可視化することが大事です。また、見積りの結果と実際の数の和との大小関係について論理的に話し合うことができるように展開していくことも大切です。



授業者の声

齊藤先生のご助言の中で、児童の生活に身近な課題設定をしていくことの大切さと問いを焦点化することが大事であることを学びました。また、考えを伝え合う場面では、可視化する重要性についても学ぶことができ、考えを明確にし、聞き手に的確に伝える力を育てる授業をつくっていきたいと思います。

参加者の声

- 四捨五入、切り上げ、切り捨ての考え方は、子供たちの生活に身近なことであるが、論理的に説明するには難しいことを実感した。その難しさを乗り越えるために、数直線図を用いるなどして思考の共有を図る必要があると分かりました。
- 様々な先生の意見を聞きながら見方・考え方の大切さを知ることができました。また、可視化の重要性、課題と問題との違いや過不足なく説明するところも印象に残りました。

次回　令和元年６月 25 日（火）授業研究会は 13 時からです。持ち物は「**新教育課程を活かす能力ベイスの授業づくり**」です。